

有馬草

まひ、この艸和名いわとくさ、いわくすりなどいふて、言のはの御すさみのたねともならんとめ  
でましければ、このむの友どちよろこびあへて、數品のあつめを望み、遠近に同好の友の廣し、草  
此文拙キヨルトベシこたび四季の壽てふ摺物を繪がき、春秋のうつりかはるかたち、冬は下葉よ  
りうつろひて落葉となり、根に來る年の新芽をもよふし、身につもる老の數おもわすれ、春ま  
どふに思ひつゝ、かく四時のたのしみつきせぬも、遠近に沙汰せんと、同好つどひ、すりものひら  
きする事しかり、

草の名によりてや人の好らぬいわくすりとぞ弄ける

〔和漢三才圖會九十四末〕有馬草 攝州有馬多有之故名

按有馬草高尺許、葉似初生櫻櫚葉而小、二三月抽莖開黃花、形略似蘭花而不香、

〔剪花翁傳五月開花〕有馬艸 花黃色、葉は縮りて形ち山茱萸の葉に似たり、開花五月中旬、河州生

駒山に産す、里にては育ちがたし、名にし負ふ池田の栽樹家とても、植育ることを得ず、

緞摺草

〔大和本草九雜草〕モジズリ 莖長尺ニミタズ、花紅白ナリ、花連リテ小ナリ、一莖ニ十餘連リ開ク、紫

蘇ノ如シ、四五月ニ開ク、其花戻レリ、葉ハ百合ノ如ニシテ狭シ、好事ノ人園ニウヘテ玩賞ス、

〔和漢三才圖會九十四末〕緞摺草 俗稱本名 古者奥州信夫郡出絹名緞摺、其文如亂髮而美、以此之名乎

按緞摺草高五六寸、葉如初生稻苗而細軟、三月開花如穗而色淺赤、

〔倭訓栞中編二十六〕もちずり、略中 今俗一種の草をいふは、その花の綬の如くなれば、爾雅の注

に綬蘭と見えたり、或は虹花とも、ねち花ともいふ、水巴載も是なりといへり、筑前に玄んこはな

鷺草

〔大和本草八水草〕鷺草 葉ハ澤瀉ニ似テ小ナリ、背ニ角アリ、又モヂズリノ葉ニ似タリ、七月白花ヲ  
開ク、其形鷺ノ飛ニヨク似テ一足垂タリ可愛、慈姑ノ如ク小キ圓根アリ、或曰濕草也、非水草、山ニ